

## 平成 30 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

変化の激しい社会の中で感性を豊かに、生き抜く子どもたちを育てる学校

- 1 学びに向かう意欲を高め、自己実現に導く教育活動を展開する。
- 2 確かな信頼関係を基盤に、豊かな人間力を育む教育活動を展開する。
- 3 先進的、先導的な教育実践に、教育センターと一体となって取組みを進める。

## 2 中期的目標

## 1 確かな学力の育成

(1) 基礎学力の定着をめざした授業改善への取組み

- ア 生きて働く知識・技能の習得を図る。
- イ 未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力の育成を図る。
- ウ 学びを人生や社会に活かそうとする力・人間性の涵養を行う。
- エ 読解力の充実を図る。

※学校教育自己診断（生徒）で「頑張ろうと意欲をかき立てられる授業がある」（平成 29 年度 55.9%）を毎年 3% 引き上げ、2020 年度には 65% にする。

## 2 教育センターと一体となった授業改善

(1) 先進的・先導的な授業実践や授業研究を教育センターと共同で行い、他の府立高校にその成果を発信する。

- ア カリキュラムマネジメントの実践を重ね、成果を府立学校へ発信していく。
- イ 観点別学習状況評価についての研究・実践を行い、成果を府立学校へ発信していく。
- ウ 調査研究事業「学びの基礎診断」を活用した授業改善の手法を実践し、成果を府立学校へ発信していく。

(2) 探究ナビを教科横断型の教科として研究・実践を行う。

- ア 「社会人基礎力」の育成を意識した授業実践を行う。

## 3 豊かでたくましい人間性のはぐくみ

(1) 誰もが個性や趣向を肯定され、他人と異なることに悩む必要がない集団づくりを促進する。

- ア 誰もが落ち着ける居場所としての集団づくりを行う。
- イ 人権教育を基盤とした生徒指導と細やかな生徒観察により、課題の早期発見に努める。
- ウ 情報リテラシーの育成を図る。

※学校教育自己診断（生徒）「クラスには自分の居場所がある」の肯定的回答を（平成 29 年度 82.3%）を毎年 3% 以上引き上げ、2020 年度には 91% にする。

(2) ガイダンス機能の充実と自ら学ぶ生徒を育成する。

- ア 探究ナビをキャリア教育の柱とし活用型の授業に取り組む。
- イ 自ら学びに向かう力をつけさせる。
- ウ 中高連携を進め、教育相談体制のさらなる充実を図る。

※学校教育自己診断（保護者）「学校は、生徒をきめ細かく、多面的にサポートしている。」の肯定的回答を（平成 29 年度 72%）を毎年 3% 引き上げ、2020 年度には 81% にする。

## 4 安全で安心な学びの場づくり

(1) 生徒が安全で安心な学校生活を送ることができるよう環境を整備する。

- ア すべての教職員が危機意識を持ち、危険予知に関する知識と緊急事態への対応能力を向上させる。
- イ クラス減に伴う空き教室の活用を図る。
- ウ いじめを見逃さない教職員集団を作る。

※学校教育自己診断（生徒）「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる。」の肯定的回答（平成 29 年度 66.8%）を毎年 5% 引き上げ、2020 年度には 80% にする。



## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 30 年 12 月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>今年度、昨年度と質問項目は全て同じである。</p> <p>【教職員向け】</p> <p>「豊かな人間力の育成をめざして、特別活動や部活動の充実に努めている」の項目で、今年度は 67.4% であり、昨年度と比較して肯定的回答率が最も下がった。働き方改革に沿って教員の時間外労働の縮減に向け、NO クラブデーの実施だけでなく、下校時刻の徹底、考査 1 週間前の部活動の制限等に取り組む。本校の時間外労働 80 時間を超える教員は、部活動を熱心に指導しているため、この点での業務削減は難しいが、顧問間で役割分担ができるようにし、短期集中で指導ができることが望ましいので、具体的方策について検討する。</p> <p>【生徒向け】</p> <p>「この学校には、他人に自慢できることがある」の項目で、今年度は 39.0% であり、昨年度と比較して肯定的回答率が最も下がった。今年度、</p>	<p>【第 1 回】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読解力の向上について、かねてより期待していた。しかし、学校だけの力では難しい側面もあるのが事実。図書館および本の整備は、重要な部分であるように思う。</li> <li>・図書館の整備について、読解力の向上、充実にむけて、昨年度まで続けてきた整備を、今年度も合わせて進めていく。昨年度、古くなっているものについては処分したために本の冊数が不足している。本の確保も大事なところである。</li> <li>・個人的なことだが、ある悩み等について先生に相談したという記憶がない。もしかしたら知らずにはいただけかもしれないが、そのような機会や部屋があることを、もう少し分かっていたら、人生が変わっていたかもしれない。そのように思うので、教育相談体制は推進して欲しい。</li> <li>・毎年の学校の取組みが非常に楽しみである。地域の中での学校の役割に期待している。</li> <li>・道徳教育や人権教育、主権者教育も今後ますます重要視されてくるだろう。報告を、学校経営計画の評価としてあらわれてくることを期待している。</li> </ul>

府教育センター附属高等学校

<p>教育産業等の情報誌に掲載され、外部への本校の紹介を行ったものの、校内への周知や紹介ができていなかった。終業式等での表彰以外にも、教員や生徒の努力した成果を報告する機会を検討する。</p> <p>【保護者向け】</p> <p>「子どもは、授業がわかりやすく楽しいと言っている。」の項目で、今年度は 46.8%であり、昨年度と比較して肯定的回答率が最も下がった。生徒へのアンケート「授業はわかりやすく、教え方に工夫してくれる先生が多い。」の項目で 54.7%であった。今後も授業において工夫している方法が共有できる校内研修となるように、授業研究委員会を中心に検討する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安心して、子どもを通わせたい！と思える学校である。</li> </ul> <p>【第2回】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登校時、よく本校の生徒を見るが、表情がとても良く、挨拶もできる生徒が多いように感じている。隣接校として、中高連携をより強められないかと思う。</li> <li>・学力のみならず、カリキュラムや制服、校則、アルバイト可否などを含めて、本人の希望する高校への進学を中学校でも押し進めている傾向がある。</li> <li>・取ったデータから、教員等が何に気づくかが鍵。勤務校（大学）では、個人に自身のデータを与え、経年変化を見られるようにしている。このような工夫を、そのまま導入できるかは別問題であるが、この視点からの工夫があっても良いのではないか。</li> <li>・「主体的・対話的で深い学び」とは、各科目・授業においてはこういったものなのか、その1つの例を、研究授業では模索されていたように感じた。3つの授業（国語、数学、公民）において共通していたのは、解決すべき課題をしっかりと設定し、そしてそれを身近なトピックと関連させていたことがあると思う。それにより、意味のないグループワークなどを教員が避け、生徒を学習の本質に向かわせていた。アウトプットにおいても、スモールステップを踏ませて行っていた。</li> <li>・教育センター附属高校として、成果をぜひ全国に広めてほしい。</li> </ul> <p>【第3回】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業評価アンケートの結果を踏まえた授業改善を、個々の教員で行うだけでなくお互いにアイデアを出しあう等、組織的に行うことが大切だ。</li> <li>・受験のためだけではない勉強の意味を伝え、生徒が受身にならない体験型の授業を行って、生徒の意欲を引き出してほしい。</li> <li>・SNSが社会問題になっているが、生徒が事件や事故に巻き込まれないよう、生徒の安全安心の確保に努めてほしい。</li> <li>・授業において、グループワークをして結論を出し、それを発表する機会を増やし、外部コンテスト等で活躍できるような生徒をたくさん育ててほしい。</li> <li>・生徒の話をしっかり聞いて、生徒に任せる部分は任せ、やる気に火を付けてほしい。</li> <li>・校外における生徒の活躍をもっとアピールして、中学校等への周知に努めてほしい。</li> <li>・次年度の学校経営計画は、本年度の課題に対応する形で作成されており、承認する。</li> </ul>
---	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	<p>(1) 基礎学力の定着をめざした授業改善</p> <p>ア 知識・技能の習得 イ 思考力・判断力・表現力の育成 ウ 学びに向かう力・人間性の涵養 エ 読解力の育成 オ 図書室の整備</p>	<p>(1) 基礎学力の定着をめざした授業改善への取組み</p> <p>ア・授業改善に向けた教科会議を定期的に行い、学びの基礎診断の結果や業者テストを活用し、学習内容の抜け落ちやつまずいている箇所の改善を図り、分かりやすい授業づくりを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・抜け落ちの部分で自ら学習できるような教材を活用する。</li> </ul> <p>イ 单元ごとにパフォーマンス課題を与え、発表の機会を設ける。</p> <p>ウ 各教科で付けたい力を生徒に伝える。さらに、探究ナビにおいて、各教科での学びを活用できるような課題を取り入れる。</p> <p>エ すべての教科で、読解力の育成を意識した課題を作成し実施する。</p> <p>オ PTA とも協力して、図書室の整備を行う。</p>	<p>ア) 教員向けアンケートや定期考査によって、生徒の定着度や変容を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ほとんど学習しない生徒の数を半減させる。</li> </ul> <p>イ) 学校教育自己診断（生徒）で「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」の肯定率 88%以上（平成 29 年度 83%）</p> <p>ウ) 学校教育自己診断（生徒）で「頑張ろうと意欲をかき立てられる授業がある」の肯定率 59%以上（平成 29 年度 55.9%）</p> <p>エ) リーディングスキルテストでの比較を行う。</p> <p>オ) 図書室の利用者数を 200 人以上にする。（平成 29 年度 66 人）</p>	<p>ア) 実力テスト結果、授業アンケート結果を、各教科で分析し、授業改善を実施。定期考査の結果や生徒の振り返りシート等も活用し知識・技能の定着を図った。次年度は、基礎診断等の結果を活用し、授業以外での学習時間も確保する指導体制を構築する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ほとんど学習しない生徒の割合」（※2年は4月、1年は9月をそれぞれ 100 としたときの増減比を示している） 2年（4月→8月8%減→1月14%減） 1年（8月→1月7%増） (△)</li> </ul> <p>イ) 各教科で I C E モデルの考え方を導入するなど、より深い学びを追及するパフォーマンス課題を設定。個人またはグループで発表する機会も適宜設けた。次年度は、今年度の取組みを他の科目にも広げられるように進めていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育自己診断（生徒）「発表機会」の肯定率：72% (△)</li> </ul> <p>ウ) シラバスや各授業において、生徒につけたい力及びそれを評価する指標やルーブリックを示し、生徒が目標を持って授業に取り組めるよう取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育自己診断（生徒）「意欲をかき立てられる授業がある」39% (△)</li> </ul> <p>エ) 各授業の中にパフォーマンス課題の導入し、また、定期考査においては問題文を読み取って解答しなければならない問題を出題し、読解力の育成を意識した指導を実施した。リーディングスキルテストは、ほぼ高校生の平均であった。しかし、「文章を読まずに、キーワードにのみ反射的に反応」し、正しく内容を読み取れない等の課題がある事が分かったので、この結果を次年度の指導に</p>

## 府教育センター附属高等学校

				つなげたい。(○)  オ)PTA の協力で新たな本棚や棚上の檜板が設置され、落ち着いた温かみある図書室が完成した。また、利用者目標を 200 人以上としたが、図書委員活動の活性化、授業(教科「探究」等)での利用もあり、441 人の利用者数となった。また、図書委員による図書新聞も 3 回発行され、全校生徒・職員へ配付した。次年度も様々な活用方法の周知や新刊図書の案内等を工夫し、読書への興味・関心を喚起していきたい。(◎)
2 教育センターと一体となった授業改善	<p>(1) 先進的・先導的な授業実践</p> <p>ア カリキュラムマネジメントの実践</p> <p>イ 観点別学習状況評価の研究・実践</p> <p>ウ 「学びの基礎診断」を活用した授業改善</p> <p>エ ICT 機器の活用</p> <p>(2) 探究ナビを教科横断型の教科としての研究・実践</p> <p>ア 「社会人基礎力」の育成</p>	<p>(1) 先進的・先導的な授業実践や授業研究を教育センターと共同で行い、他の府立高校にその成果を発信する。</p> <p>ア 各教科の学びを教職員で共有できるよう見える化を行い、成果を次年度のシラバスに反映させる。</p> <p>イ 観点別学習状況評価を意識した考査問題を作成し、生徒には観点別評価を意識できるような考査後の振り返りを行う。</p> <p>ウ 本年度実施した「学びの基礎診断」から課題を洗い出し、授業改善を行い、その成果を報告・発表する。</p> <p>エ ICT 機器を活用している教員の授業を見学し活用度を高める。</p> <p>(2) 探究ナビを教科横断型の教科として研究・実践を行う。</p> <p>ア 「社会人基礎力」の育成を意識した授業内容とする。その成果と課題の検証を行う。</p>	<p>(1)</p> <p>ア) 成果物を共有する。</p> <p>イ) 授業アンケート(生徒)の「知識や技能が身に付いたと感じる」の学校平均を、3.3 以上(平成 29 年度 3.0)</p> <p>ウ) 診断結果から効果を調べる。</p> <p>エ) 学校教育自己診断(生徒)で「コンピュータやプロジェクトなどを使った授業がある」の肯定率 80%以上(平成 29 年度 76%)</p> <p>(2)</p> <p>ア) アンケート調査を行い検証する。</p>	<p>(1) 調査研究の総括を現在行っており、成果報告書を作成し、発信する。教育センターの研究フォーラムで授業研究の取組みの成果を発表した。</p> <p>ア) 年度初めに、各教科の授業研究の目標を考え、毎月定例の授業研究委員会や校内研修において進捗状況を確認、共有した。また、各教科の授業研究計画や研究授業に関わる成果物を校内フォルダーで共有し、自由に閲覧・活用を可能にした。(○)</p> <p>イ) 国・数・英において、観点別学習状況評価を意識した考査問題を作成し、振り返りシートを利用して生徒に振り返りをさせ、次の学習へ活かせるようにした。</p> <p>・授業アンケート「知識・技能が身に付いたと感じる」第 1 回 3.1 第 2 回 3.1 (△)</p> <p>ウ) 「学びの基礎診断」試行調査の結果について、教育センターとの連携により分析を行い、各教科内で課題を共有し、授業改善に活かす材料とすることができた。次年度も基礎診断を活用し、校内研修等を通して、学習課題の共有、改善を進めていく。(○)</p> <p>エ) 多くの教員が、ICT 機器を活用しており、タブレット型 PC やプロジェクトの活用が当たり前になっている教員も増え、徐々に裾野が広がっている。</p> <p>・自己診断アンケート「コンピュータやプロジェクトなどを使った授業」67.5% (△)</p> <p>(2)</p> <p>ア) 主に、教科「探究」で育成を図っている「主体性のある実行力、考え抜く力、チームで働く力」等について「知識や技能が身に付いた」は、78.0% が肯定的であった。次年度は、今年度の成果を踏まえ、興味・関心を持って、主体的に取り組めるよう更なる改善を行う。(○)</p>
3 豊かでたくましい人間性のはぐくみ	<p>(1) 集団づくり</p> <p>ア 居場所としての集団づくり</p> <p>イ 課題の早期発見</p> <p>ウ 情報リテラシーの育成</p> <p>(2) ガイダンス機能の充実と自ら学ぶ生徒を育成</p> <p>ア 活用型の授業</p> <p>イ 自ら学びに向かう力</p> <p>ウ 教育相談体制の充実</p> <p>エ 機能の充実</p>	<p>(1) 誰もが個性や趣向を肯定され、他人と異なることに悩む必要がない集団づくりを促進する。</p> <p>ア 探究ナビの導入に、ストレスコントロール力を高めるような内容を取り入れ、いじめの防止にもつなげる。人間関係トレーニングのワークを取り入れて、安心感のある集団をつくることで、授業内でも意見が言いやすいような雰囲気意識して作っていく。</p> <p>イ 特徴ある生徒の特性を理解するための校内研修を行う。生徒のわずかな変化も見逃さないよう、学年会や支援委員会での情報共有を充実させる。</p> <p>ウ オリエンテーション、教科情報、式典などの機会に情報発信についての注意や危険性についての啓発を行う。</p> <p>(2) ガイダンス機能の充実と自ら学ぶ生徒を育成する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア) 生徒向け学校教育自己診断結果における「クラスには自分の居場所がある」に対する肯定率 85% 以上(平成 29 年度 82.3%)</p> <p>イ) 学校教育自己診断(生徒)で「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる」に対する肯定率 70%以上(平成 29 年度 66.8%)</p> <p>ウ) SNS 関係のトラブルの減少。</p> <p>(2)</p> <p>ア) アンケート調査を行い</p>	<p>(1)</p> <p>ア) 探究ナビの導入プログラムについては、全体研修を行い、内容の充実を図った。人権・教育相談研修は 7 月と 12 月に全体研修を、パワーアップ研修を年間 4 回行った。実施時期を精査し、より多くの参加者となるよう体制を改善し、実施していく。目標には届かなかったものの、従前から肯定的評価が高い中で昨年よりやや向上することができた。</p> <p>・学校教育自己診断(生徒)の肯定率: 82.6% (○)</p> <p>イ) 教員へのアンケートでは、「人権尊重」の肯定率: 81.4%、「生徒保護者の声に耳を傾け応える努力」の肯定率: 90.7%。一方、保護者へのアンケートでは、「きめ細かい多面的なサポート」の肯定感: 73.4%、「いじめへの真剣な対応」の肯定感: 78.5%。生徒へのアンケートでは、「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる」の肯定率: 63.2%。「先生は真剣に自分のことを考えて</p>

府教育センター附属高等学校

		<p>ア 探究ナビと進路指導、選択科目の決定と関連付けた取組みを行う。</p> <p>イ 教科の学びと社会のつながりを单元ごとに伝えて、学習することの意味を伝え、興味関心を高める授業づくりを行う。また、学習する生徒集団の育成を図る。</p> <p>ウ 授業見学等、近隣中学校と教員間の日常的な繋がりを図ることで、入学後の教育相談に活かしていく。</p> <p>エ 選択科目の相談体制を整えるための教員研修の実施と会議の終了時間を決めることで相談時間の確保を行う。</p>	<p>検証する。</p> <p>イ) 生徒向け授業アンケートの「授業内容に興味・関心を持つことができたと感じている。知識や技能が身に付いたと感じる。」の学校平均を、3.3以上(平成 29 年度 3.0) 近畿大学等関西の中堅大学への合格者 50 人以上。</p> <p>ウ) 学校教育自己診断(教職員)で「近隣の学校などとの交流の機会を設けたり、…」に対する肯定率 75%以上(平成 29 年度 71.4%)</p> <p>エ) 学校教育自己診断(教職員)で「生徒一人ひとりが興味・関心、適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい指導を行っている」に対する肯定率 75%以上(平成 29 年度 71.4%)</p>	<p>指導してくれている」の肯定率：66.2%。教員の真剣さは理解されているものの、自分にとって満足できるところに至っていないと考えられる。次年度は、この差が縮まるよう取り組む。(△)ウ) 1 年生のオリエンテーションや情報の授業、また、生徒集会、外部講師(民間企業)による講演会で生徒に啓発活動を行った。生じた該当事象は、1 件であった。今後も引き続き、携帯電話等の使い方を学ぶ機会を増やしていきたい。(○)</p> <p>(2)</p> <p>ア) 探究ナビⅡ(テーマ「社会とつながる」)において、将来の進路を見据えたキャリア教育に取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育自己診断「将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている」「将来の進路や生き方について考える機会がある」</li> </ul> <p>保護者の肯定率：86.1%(昨年度比+1.0)(○) 生徒の肯定率：81.2%(昨年度比-4.7)(△)</p> <p>イ) 授業アンケート「授業内容に興味・関心を持つことができたと感じている。知識や技能が身に付いたと感じる。」3.0(△) 近畿大学等関西の中堅大学への合格者は、62 名であった。次年度も大学進学者を含め、進路希望の実現をめざす。(○)</p> <p>ウ) 近隣中学校へのガイダンスや出前授業を、延べ 6 回実施。広報の一環としてすべて広報委員会委員長(教頭)と広報委員会主任(指導教諭)が担当した。今年度は新採教員がいなかったため、校内初任研として若手教員の校種間交流を企画する等ができなかったもあり、教員間の日常的な繋がりを図るところまで至らなかった。次年度は近隣中学校との連携に、多くの教職員が関わる形で行えるように工夫したい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育自己診断(教職員)の肯定率：60.5%(△)</li> </ul> <p>エ) 進路指導部による分野別説明会や学校・企業の見学等の取組みの推進に加え、勉強合宿(1 年)や各学年による多数の講習・補講、さらに面接や小論文の個別指導を実施できた。次年度は取組みの充実を生徒一人ひとりのさらなる進路実現へとつなげていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育自己診断(教職員)「生徒一人ひとりが興味・関心、適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい指導を行っている」の肯定率：79.1%(◎)</li> </ul>
--	--	---	--	--

## 府教育センター附属高等学校

<p style="text-align: center;">4</p> <p style="text-align: center;">安全で安心 な学びの場 づくり</p>	<p>(1) 安全安心な学校生活</p> <p>ア 危険予知と緊急事態への対応能力の向上</p> <p>イ 空き教室の活用</p> <p>ウ いじめを見逃さない教職員</p>	<p>(1) 生徒が安全で安心な学校生活を送ることができるよう環境を整備する。</p> <p>ア・さまざまな緊急事態を想定した机上訓練を行い、対応マニュアルのさらなる整備を行う。また、災害備蓄について検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・探究ナビの中に防災教育を取り入れる。</li> </ul> <p>イ 3年間で3教室の空教室ができる。安全安心を意識した活用方法について検討する。</p> <p>ウ いじめアンケートの内容を教職員で共有する。また、職員室付近に、簡単な相談ができるような場所を設ける。</p>	<p>ア) 新マニュアルを完成する。</p> <p>イ) 3年を見通した計画を立てる。</p> <p>ウ) 言いやすい環境をつくることで、いじめに関するアンケートの記入量の増加で調べる。</p>	<p>ア) 昨年度のマニュアルを改良した。今年度の訓練は地震、火災について行った。実際に使える器具などの点検も行った。他の対応についてはまだまだ改善の余地があり、災害備蓄にいても検討中である。また、探究ナビIにおいて、「災害協力シミュレーションゲーム(神戸市消防局作成)」を活用した現実に則した学習を行った。(○)</p> <p>イ) 今年度は、1教室が空いたので、安全・安心を意識した活用方法について、将来構想委員会から提案し、企画運営委員会・職員会議で内容を議論した。大和川の氾濫や予想を超える津波を想定し、生徒用及び教職員用の防災備蓄品の保管場所を検討し、最上階の3階にした。2階に教科の準備室を配列した。また、廊下に生徒が質問しやすい環境整備を検討し、今年度中に移動する。(◎)</p> <p>ウ) いじめに関するアンケートの結果だけでなく、その後の対応についても、各学年でより迅速に対応し、統一した記録用紙で状況を共有した。アンケートの自由記述欄に記入のあった生徒数は、17名(昨年度13名)で、教職員により速やかに対応した。次年度は職員室前廊下の相談スペースをさらに拡大し、生徒が教員に相談しやすい環境作りといじめ等の早期発見及び対応(共有と記録を含む)の体制作りにさらに努めたい(○)</p>
---	---	---	---	---